

○フゴの中揺られて祖父とゆく花野  
○灰ひとつ落して続く父の黙  
螻蛄の片足わずか命乞い

志津子

ふるさとに向ふ特急雁渡る

一枝

くれなずむ土佐おだやかな神無月

凸凹ひくはくのどこから剥はこうから・フランス

千代

背せなの鈴ひびき一人の花野道

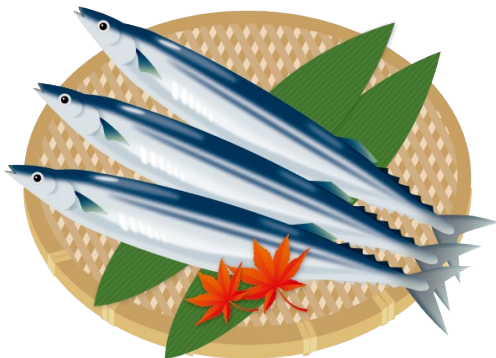
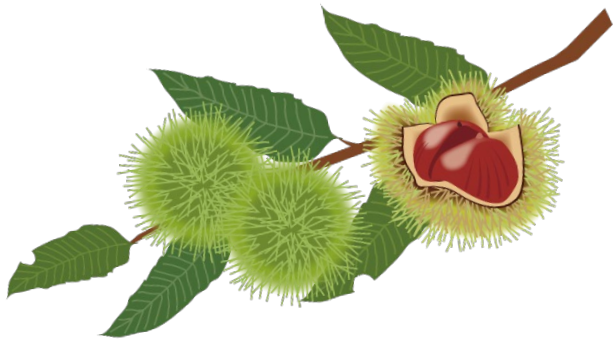
スカートの襷にアイロン虫の声

雑念をゆるりと包む今年酒

初江

○昼食はジビエとありし紅葉ツアー

花野バス待つ間の缶コーヒーはBOSS  
十三夜街中に増ゆパーキング



間引菜の優しい匂い今朝の枕  
舟釣りを辞めたと夫は秋刀魚買う  
高齢者免許更新鳥渡る

富江

○虫しぐれ男ばかりがいなくなる

ゆの

○えりちゃんもひろ君もいる大花野

秋草を活けて秋だと思いきり

美貴

○廃屋の何時しか傾ぎ蔦紅葉

吾もひとりお前もひとり残る虫

蓑虫の風に遊べる糸長し

弘

○骨壺もあり拾得物掲示板

○深秋のイーストウッドも老いにけり

ちちははの記憶は薄れ暮の秋

丞子

コスモスの花のマニキュアお姫さま  
初秋刀魚のどに小骨の楔かな  
暮れやすし螻蛄ほうむる土の穴

○団栗やママ好きパパ好きみんな好き  
花野ゆくうすむらさきのスニーカー  
明月や槍の穂先の浮き上り

郁子

なかなか日傘動かぬ立話

秋風や老いは密ひそかにマスク内うち

思おもいっきりコスモス色の風に染そみ

えり

○毬いがの内栗の神々隠れをり

刈田道若い夫婦の実り見ゆ

銀色の川面に揺られ鴨眠り

味元 昭次 作品

長き夜の地球儀廻す家族かな  
ぶらぶらの林檎の皮の先に父  
身しに入いむや空蟬いまだ草に垂る

★次回市民句会

【開催日時】

令和三年十一月二十四日(水)

午後一時一五分〜午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます

